

皆さまからお寄せいただいたご意見やご要望を、議会質問で取り挙げています。
ぜひ、お聞かせください。

下記のなかでご協力いただける項目がありましたら、お知らせください。

- 立憲民主党の党员・協力党员（サポーター）・パートナーになる。
- 大野トモイを応援する。
- 大野トモイの活動に参加する。
- 大野トモイの市政レポートを送ってほしい。
- その他（

ぜひ、市会HPで
質疑の動画や議事録を
ご覧ください。



立憲民主党

横浜市議員(港北区)

大野 トモイ

- ◆高知県四万十市生まれ
- ◆ICU（国際基督教大学）卒業
- ◆学生時代から民主党青年局の活動に参加
- ◆2005年衆院選（惜敗率72.5%）、2009年衆院選（87.0%）、民主党衆議院議員公設第一秘書、都内外資系企業人事部管理職を経て、2019年より現職

市政レポート

2019年度決算審査



IR推進費を含む決算に、 港北区の立憲民主党議員では 大野トモイだけが反対。

令和2年第3回定例会（9/2～10/14）では、2019年度の決算が審議されました。

私の所属する会派の会派方針は『賛成』であったため、いわゆる『造反』となり、処分の対象となりましたが、市民の皆様との選挙時の約束を貫くための行動でしたので悔いはありません。

本会議での決算案採決に先立ち開かれた決算特別委員会において、私は、資源循環局と交通局の審査を担当し、以下の項目で質問に立ちました。

【9/29 資源循環局】

- ◆資源集団回収 ◆食品ロス削減
- ◆土壌混合法 ◆ICTを活用した
ゴミの分別案内と情報発信
- ◆PCB廃棄物の適正処理

【10/5 交通局】

- ◆人にやさしい地下鉄の取り組み
- ◆バスの事故防止、路上故障防止
- ◆交通局の人材確保に向けた取り組み
- ◆女性が働きやすい職場づくり
- ◆職員の健康管理の充実



横浜市議員 大野トモイ

〒222-0037 港北区大倉山3-1-3-3E
TEL:045-330-8178 FAX:045-298-8475
E-Mail: anatanokoe@tomoi.yokohama

～すべての人に居場所と出番を～

◆ フードロス削減

フードロス削減にも寄与すると期待されるフードシェアリング事業を本市が始めたことを受け、経緯と取り組み状況を確認。食品ロス削減はSDGsのゴールのひとつでもあり、また、食品ロス削減推進法が昨年施行されたタイミングでもあることから、昨年度80店舗が新規登録され合計909店舗となった食べきり協力店事業の認知度向上、消費者が商品を購入した代金の一部を市内フードバンク団体へ寄付できる仕組みなどと合わせて、いっそうの取り組みを求めました。

◆ 資源集団回収

昨年12月、資源集団回収の回収事業者が急遽回収不能となり、港北区を含む地域で古紙回収が停止したことを取り上げ、回収事業者の撤退があった区と団体数を確認。昨年12月に3社が撤退し11区168団体が、今年3月末には1社が一部撤退し13区388団体が、影響を受けたとの答弁。当時、私も連日、局に対応をお願いしたことから、後継事業者決定までの間、臨時的に横浜市収集事務所が回収し、回収事業者と連携して後継事業者を決定した経緯に、謝意を表明。市民・事業者・行政の協働である本事業を、今後も安定的に行えるよう、引き続きの支援を求めました。



◆ PCB廃棄物の適正処理

PCB特別措置法による処分の期限が、令和3年度末までとなっている変圧器とコンデンサー、4年度末までとなっている安定器について、処分の進捗状況を確認。市役所保管分は、安定器を元年度末までに7割が完了したとの答弁があり、残りの分の期限内の確実な処分を求めました。民間事業者保管分について、法律では事業者が自ら処理しなければならないことになってはいますが、期限内に適切な処分がなされるよう、保有しているかの掘り起こし調査などの啓発活動を引き続き行って事業者を支援するよう、求めました。

◆ 人にやさしい地下鉄の取り組み

新横浜駅などリニューアル工事が行われている市営地下鉄の駅について、高齢の方や障がいのある方や外国の方など、誰もが利用しやすい駅となることが求められる、とし、バリアフリーやユニバーサルデザインの取り組みの進捗を確認。あわせて、ハード面だけでなくソフト面の整備も重要なため、駅での業務に従事する職員への研修の充実なども、求めました。

◆ バスの事故防止

事故未然防止研修や人身事故再発防止研修にくわえ、児童を含む市民の皆様全体への交通安全啓発など、事故をなくすための取り組みの状況を確認。昨年度に交通局が策定した健康経営計画は、職員全体の健康の底上げのみならず、職員の健康に起因する事故の防止にも資すると考え、なかでも地下鉄運転士およびバス乗務員に特化した取り組みを、強く求めました。

◆ (交通局における)女性が働きやすい職場づくり

「私はジェンダー平等を大切にしており、水道局・市民局・こども青少年局での審査など折に触れて取り上げて来た。市営交通の安全を支える職員が、健康で、性別やライフステージにかかわらずそれぞれの力を発揮できる環境や制度や風土を整えることは、職員が生き生きと働くことにつながり、ひいては安全・確実・快適な交通サービスにつながる。」とし、交通局の取り組み状況を確認。交通局が現業職員との意見交換会やヒアリングを経て進めてきた、女性用施設の整備・バス運転手や地下鉄乗務員が育児や介護などライフステージに合わせて対応可能な日中のみシフトの導入と拡大、マタニティ制服の製作など、環境整備をさらに進めるよう、求めました。